



「救急箱に生理用品」という選択

女性支援のPCEA連盟が提案

性差による「見えない女性の負担」を軽減できる社会の創造、性差による体調の違いを認識・理解し合える社会の実現を目指す一般社団法人PCEA連盟（富山市才覚寺775）の特徴的な活動として、女性用救急箱「PCEA BOX設置活動」がある。その発端は、「なぜ職場には救急箱があるのに生理用品は入っていないのか」という思いから。そこで、生理中の女性に必要なものを一つのボックスにまとめて、女性用救急箱として企業や学校に設置（常備）してもらう活動を進めている。職場や学校での急な生理に対処できる商品を詰め合わせた女性のための救急箱は、地震などの自然災害時のBCP対策としても重要な役割を担うことから、同連盟では「きづな」なる理解と協力を得られるよう、広く周知していきたい」とする。

PCEA連盟は、フェ
 ムテック・フェムケアの
 オリジナル商品の開発・
 販売など、多岐にわたる
 商品・サービスを手がけ
 てきたチルドレン（富山
 市）が、先づ法人格を

誰もが心と体のリズム
 に寄り添いながら、自
 分らしく生きられる社
 会を目指すという考え
 から、『Pink Catpillar's
 Essential Actions』の頭
 文字でつったもの。

一般社団法人に移行して設立。これまでチルドレンが行ってきた、女性の心と体の問題・課題を広く知ってもらうための数々の活動を軸に、企業・自治体・個人をつなぐ連携組織として再始動した。

なお、PCEA（ピーシア）とは「ピンクのいもむし」がさなぎを経て蝶になり、自由に羽ばたくように、自分たちも一歩ずつ行動を積み重ね、

PCEA連盟の代表理事である田中愛乃さんは、これまでチルドレンの代表として女性の生活・職場環境の改善に加え、PMS・生理など女性特有の心と体の問題解決と周知・理解を広げる活動「PCEAプロジェクト」を行ってきた。今回、一般社団法人化となったことで「より多くの方々と手を取り合える器が整った」として、企業の福利厚生や職場環境

「PCEA BOX」は、職場や学校などに急に生理が来た時に対応できるナプキン3タイプ（羽つき30枚、羽なし16枚、ショーツ型8枚）、タンポン7本、ウェットシート24枚、低温カイロ10個が入っている。例えば

医薬品類は入れていない。なお生理用品については、1人の女性が1日に使用する枚数を昼用ナプキン5〜6枚、夜用ショーツ1枚と想定して計算しており、1BOXで災害時には2人で4日分（4人の場合は2人分）の目安となっている。

救急箱の素材は、環境のことも考えて組み立て式の段ボールとしている。ナプキン、タンポンは敏感肌にやさしいオーガニックコットン100%使用の「ソフィ」ブランド製品（ユニ・チャーム）を採用。ウェットシートは、女性では災害時にシャワーを使えないとデリケートゾーンの不衛生で、膀胱炎とか膣感染症になりやすいこともあり、水が制限された中でも体が拭きやすいように入れているもので、使用後にトイレに流せるタイプを採用した。

この「女性用救急箱」を職場に設置することで、仕事上の急な生理にも対応できる。同連盟の田中代表理事、スタッフ



予期せぬ災害時対策にも有用

を務める監事の中川あずささんも「女性が安心して働くことができる環境づくりの第一歩は、生理用品を職場に常備しておくこと」言っているのは。そして職場に生理用品が常備されていることを周知すると共に、ローリングストックとして普段から利用を促すこと

箱、備蓄用生理用品720枚、緊急対策用ステッカー（災害時や緊急時の生理用品を備蓄していることを告知するステッカー）1枚が送付される。個人の一般会員には、女性用救急箱1箱、PCEAバッジ（ピンクのいもむしがデザインされたピンバッジ）1個が（無料配付）できる仕組みを確立することも目標に掲げている（一般会員の法人会員は1社当たりナフキン2880枚、個人会員は1名当たり360枚）。寄付先の学校については、特に会員の指定がなければ連盟が厳選した上で決定する。

昨年1月の令和6年能

家庭での対策

アンケートが行った「防災意識」に関する調査によると、家庭で何らかの防災対策を実施している人の割合は51・8%で、一昨年(47・1%)、昨年(50・9%)の調査から着実に増加を見せ、過去最高となった。調査は7月24・28日にかけて、全国の15~79歳男女5000人に実施した。

防災対策への関与は、男女共に増加傾向にあるが、特に女性の積極性がうかがえた。男性は受動的傾向にあるのに対し、女性は「主に自身が防災対策をしている」割合が年々上昇し、今回30・1%に達するなど、家庭での防災対策は「女性主導」で

インテージが行った「防災意

インテージが「防災意識」調査

具体的な防災対策内容では「簡易トイレ」が前年比123・6%と大幅に増加しており、断水や避難生活への備えを強化したのがうかがえる。このほか「避難場所を確認・家族で共有」が前年比108・5%、「生理用品が同108・4%」、「持病の薬・常備薬」が同104・1%など、家族構成や健康状態、生活環境など個々の事情に応じた備えや配慮、いわゆる「個別ニーズ」への対応が進展した。

なお近年の猛暑を背景に、「冷房がきいた施設での高温対策」が前年比107・8%、「緑のカーテンによる暑さ対策」が同

に「応じた備えが浸透しつつある」と言える。

防災への自己評価については、「できている」と自信を持って回答した人はわずかに1・8%にとどまった。このほか「どちらかといえばできている」19・2%、「どちらともいえない」35・8%、「どちらかといえばできていない」27・5%、「できていない」15・7%となった。

1人当たりの防災対策費用（過去1年）は2892円（前回調査から微増（61円増））となった。一方、今後1年でかけたい費用は5473円（前回5748円）であった。

このドキドキ、 「どうき」なのかな？

運動などをしたわけではないのに、ドキドキする。
健康診断でも異常はないのに、気がつくとき、また…。
煩わしいその不調、「どうき」かもしれません。
原因は、加齢や不安、自律神経の乱れなどさまざまです。
そのままにしておくのは辛いですね。
そんな時には救心がお勧め。
生薬の働きで血の巡りをよくし、
どうき、息切れ、気つけに優れた効果を発揮します。
ドキドキしたら我慢しないで、早めに救心を。

運動などをしたわけではないのに、ドキドキする。
健康診断でも異常はないのに、気がつく、また…。
煩わしいその不調、「どうき」かもしれません。
原因は、加齢や不安、自律神経の乱れなどさまざまですが、
そのままにしておくのは辛いですね。
そんな時には救心がお勧め。
生薬の働きで血の巡りをよくし、
どうき、息切れ、気つけに優れた効果を発揮します。
ドキドキしたら我慢しないで、早めに救心を。



どうき・息切れ・気つけに



 救心製薬株式会社

〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7

【製品についてのお問い合わせ先】
救心製薬お客様相談室 ☎03-6861-9494
[受付時間] 9:00～17:00(土、日、祝日、弊社休業日を除く)